

2023年度以降の自然再生地のモニタリング

【目次】

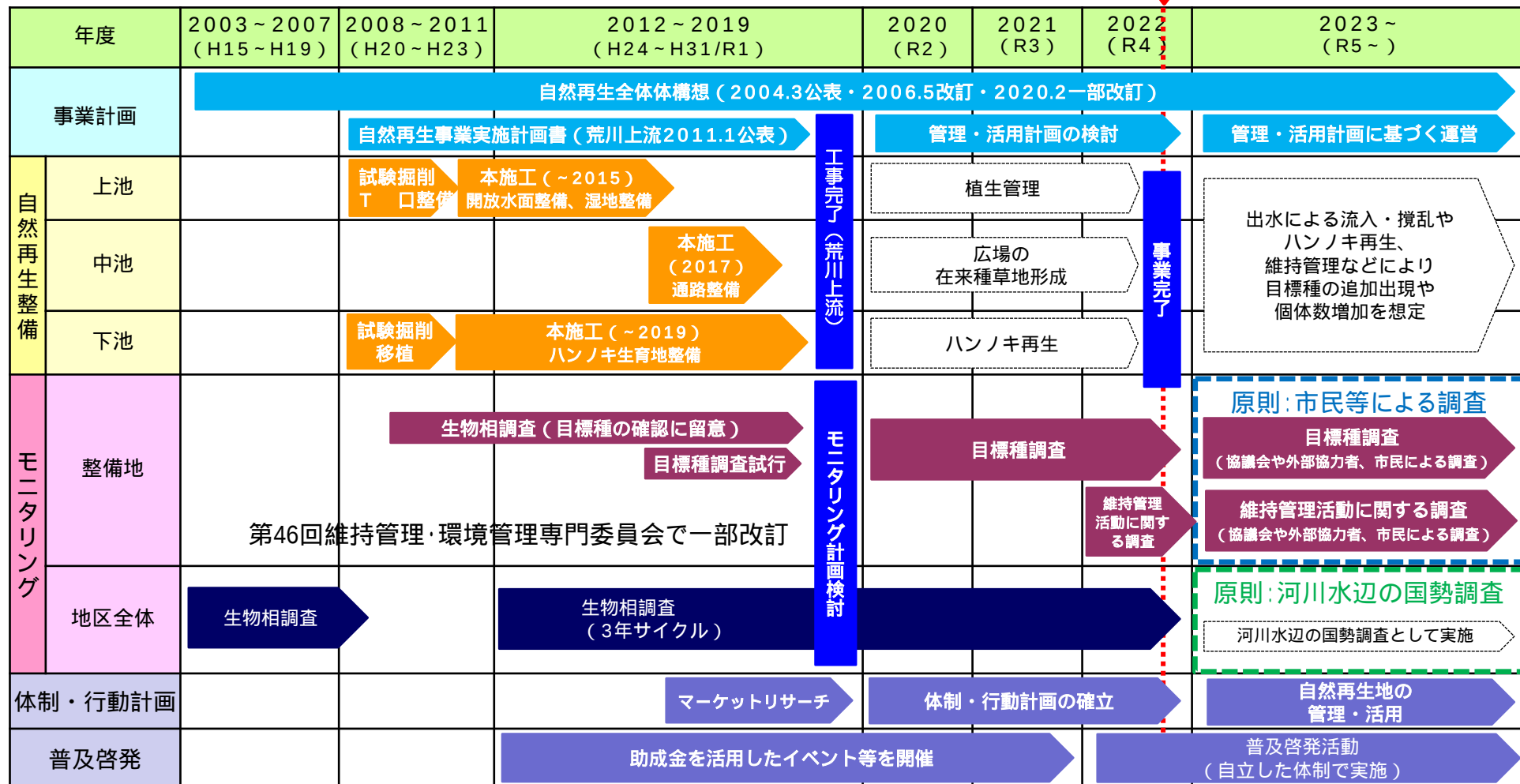
- | | | |
|-----------------------------|-------|------|
| 1．2023年度以降のモニタリングについて | ．．．．． | P 2 |
| 2．2023年度のモニタリング計画（案）について | ．．．．． | P 16 |
| 3．2023年度以降のモニタリングにおける課題について | ．．． | P 20 |

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(1) モニタリング方針

- 自然再生全体構想では、自然再生目標を達成するための施策にモニタリングを位置付けています。
- 事業完了後の2023年度以降のモニタリングは、『整備地』では協議会や外部協力者・市民による調査(目標種調査)を、『地区全体』では河川水辺の国勢調査として実施することとを提案します。

荒川太郎右衛門地区自然再生事業 ロードマップ



1 . 2023年度以降のモニタリングについて

- 2023年度以降のモニタリングは、事業の評価結果や今後に必要な維持管理内容を踏まえ、自然再生地の状態把握や管理効果の検証に必要な計画を策定する必要があります。
- モニタリングの実施にあたっては、限られた資源(人材、資金)の基で実施することが前提となることから、モニタリング項目の必要性、優先順位、投入する資源(資源の確保を含めて)について協議が必要です。
- 具体的な調査項目については、2022年度に素案を作成し、十分な協議をしながら作成することが必要と考えています。

(2) モニタリング項目 地区全体の調査

- 地区全体の調査は一部を除き、河川水辺の国勢調査で把握します。

区分	R2～R4モニタリング項目	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
地区全体の調査	水位	工事後のデータが取得できたことから、詳細な調査は終了する。	■	量水標やバックテストなど簡便な方法を用いて市民等による調査が実施可能か検討する。
	水質		■	
	植生図	自然再生地の一部について河川水辺の国勢調査において10年ごとにデータが得られることから、原則、河川水辺の国勢調査でデータを蓄積するものとする。	○	河川水辺の国勢調査の調査レベルであると、整備地ごとの詳細な植生図は作成することが出来ない。整備地の管理を今後行っていくためには、詳細な植生の把握方法を検討する。
	植物		○	自然再生地の全体でデータを得るためには河川水辺の国勢調査を補完する調査が必要である。
	鳥類		○	
	両生類・爬虫類・哺乳類		○	
	陸上昆虫類等		○	

○ : 河川水辺の国勢調査として実施、 ● : 事務局が実施、 ■ : 協議会や外部協力者・市民による調査

1 . 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 地区全体の調査

- 地区全体の調査のうち、魚類、底生動物については、河川水辺の国勢調査の対象ではないため、当面、事務局で調査を実施しますが、簡便な調査を検討します。
- UAV撮影と定点写真撮影は、当面、事務局で調査を実施します。

区分	R2～R4モニタリング項目	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
地区全体の調査	魚類	捕獲許可や特別な器具が必要なため、当面、事務局で実施する。	●	環境DNAなど簡便な調査を検討する。
	底生動物		●	
	UAV撮影	特別な機材や諸手続きが必要なため、当面、事務局にて実施する。	●	
	定点写真撮影	協議会HPへの掲載するため、かつ場を把握するための基本的な調査として、当面、事務局で調査を実施する。	●	今後は、維持管理作業などの効果が把握できる地点に絞り込みを行います。

○：河川水辺の国勢調査として実施、 ●：事務局が実施、 ■：協議会や外部協力者・市民による調査

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査

- 事業実施計画調査として実施している整備地の調査については、原則協議会や外部協力者・市民により、モニタリングを実施していきます。
- 目標種の調査は、原則、以下の通り、継続して生育・生息を確認している種については調査を終了し、その他の種についてモニタリング対象とします。
 - ・ R2～R4のモニタリングで継続・安定して生育・生息を確認している目標種
：目標を達成したと評価し、当面、調査を休止します。
 - ・ R2～R4のモニタリングで継続して確認しているが、個体数の減少傾向にある目標種
：目標は達成していますが、安定して生育・生息するか不明なため、当面、調査を継続します。
 - ・ R2～R4のモニタリングで確認していない目標種
：目標を達成していないため、当面、調査を継続します。
 - ・ R2～R4のモニタリングで確認していない目標種のうち周辺でも生育・生息が確認できない種
：今後も生育・生息の可能性が小さいため、調査を終了します。

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (a) 定点写真撮影

- 定点写真撮影は、当面、事務局で調査を実施します。

区分	R2～R4モニタリング項目	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	定点写真撮影	協議会HPへの掲載するため、かつ場を把握するための基本的な調査として、当面、事務局で調査を実施する。	●	今後は、維持管理作業などの効果が把握できる地点に絞り込みを行います。

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (b)植物

- 植物は攪乱などの影響を受けやすく、生育に不安定さが伴うことから、当面モニタリングを継続します。

区分	R2～R4モニタリング項目	目標種	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	植物	イチョウウキゴケ、エキサイゼリ、	目標は達成しているが、植物は攪乱などの影響が大きく生育に不安定さが伴うことから、当面、調査を継続する。	● ■	
		タコノアシ、ヒシ、ミゾコウジュ、ノウルシ、サクラソウ	目標は達成しているが、確認数が少ないため、調査を継続する。調査は掘削地で調査に危険を伴うこと、安定して確認できる保証がないことから、当面、調査を継続する。	● ■	
		ホザキノフサモ、ナガボノワレモコウ、フジバカマ、ミクリ	確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は掘削地で調査に危険を伴うこと、安定して確認できる保証がないことから、当面、調査を継続する。	● ■	

○：河川水辺の国勢調査として実施、 ●：事務局が実施、 ■：協議会や外部協力者・市民による調査

目標の達成状況は暫定評価

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (c) 昆虫類

- 昆虫類については、周辺で生息が確認できないヘイケボタルについては、今後も生息の可能性が小さいため調査を終了します。
- ミドリシジミについては、目標は達成していますが、生息環境であるハンノキ林の再生が継続中のため、調査を継続します。
- 昆虫類については、知識を有する協議会のメンバーの協力を仰ぎながら、イベントを通じて市民モニタリングの実行可能性を試行します。

区分	R2～R4モニタリング項目	目標種	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	昆虫類	ネアカヨシヤンマ、クマコオロギ、ハネナシアメンボ、エサキアメンボ、オナガミズアオ	目標は達成しているが、確認数が少ないため、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により調査を実施することを検討する。	■	
		ミドリシジミ	目標は達成しているが、ハンノキ林の再生は現在継続中のため、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により調査を実施することを検討する。	■	現在、実施している観察会をモニタリング成果として活用
		オオキトンボ	確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
		ヘイケボタル	周辺で確認されておらず、今後も生息の可能性が小さいことから、調査を終了する。		

○：河川水辺の国勢調査として実施、●：事務局が実施、■：協議会や外部協力者・市民による調査

目標の達成状況は暫定評価

1 . 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (d)魚類、甲殻類・貝類

- 魚類については、ミナミメダカやナマズは継続して確認しているため、当面調査を休止します。
- キンブナについては周辺で生息が確認できていないため、今後も生息の可能性が小さいと判断し、調査を終了します。
- 甲殻類・貝類については、捕獲許可や同定精度が必要なため、当面、事務局を含めて調査を実施しますが、環境DNAなどの簡便な手法や魚類を含めた採集を伴うイベントなどで調査を実施できないか検討します。

区分	R2～R4モニタリング項目	目標種	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	魚類	ミナミメダカ、ナマズ	目標は達成していることから、当面調査を休止する。		環境DNAなど簡便な手法での調査の継続を検討する。
		キンブナ	周辺で確認されておらず、今後も生息の可能性が小さいことから、調査を終了する。		
	甲殻類・貝類	ヌカエビ、ヒメモノアラガイ	確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は、同定精度の確保や許可が必要なため、当面、事務局を含め調査を実施する。	● ■	環境DNAについては、現在のところ、対象種そのものを同定できないため、類縁種で判断する。
		ドブガイ	整備地では確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は、同定精度の確保や許可が必要なため、当面、事務局を含め調査を実施する。	● ■	

○：河川水辺の国勢調査として実施、 ●：事務局が実施、 ■：協議会や外部協力者・市民による調査

目標の達成状況は暫定評価

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (e)両生類・哺乳類

- 両生類のうち、ニホンアカガエルについては、生息環境が維持されているか確認するため、当面調査を継続します。
- シュレーゲルアオガエルについては目標を達成していないことから、調査を継続します。
- 哺乳類のうち、ホンダタヌキ、ホンドキツネについては、継続して確認しているため当面調査を休止します。
- ホンシュウジネズミは、確認がなく目標は達成していませんが、通常の捕獲調査で確認することが困難なため、調査を終了します。

区分	R2～R4モニタリング項目	目標種	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	両生類	ニホンアカガエル	目標は達成していますが、生息環境が維持されていることを確認するため、調査を継続する。	■	
		シュレーゲルアオガエル	確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
	哺乳類	ホンダタヌキ、ホンドキツネ	目標は達成していることから、当面調査を休止する。		
		ホンシュウジネズミ	確認がなく、目標を達成していないが、調査で確認することが困難なため、調査を終了する。		

○：河川水辺の国勢調査として実施、●：事務局が実施、■：協議会や外部協力者・市民による調査

目標の達成状況は暫定評価

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 各整備地の調査 (f)鳥類

- 鳥類のうち、オオタカ、バン、カワセミ、チョウゲンボウについては、継続して確認しているため当面調査を休止します。
- コウノトリについては、市民の関心が高く、確認記録が別途公表されているところから、これら公表データの取得で調査の代わりとします。
- その他の目標種については、目標を達成していないことから、調査を継続します。

区分	R2～R4モニタリング項目	目標種	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
整備地の調査	鳥類	オオタカ、クイナ、バン、カワセミ、チョウゲンボウ、	目標は達成していることから、当面調査を休止する。		
		ヒクイナ、タゲリ、ツミ、サシバ、コミミズク	目標は達成しているが、確認数が少ないため、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
		ヨシゴイ、タマシギ、コヨシキリ、	確認がなく、目標を達成していないことから、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
		コウノトリ	確認記録はありませんが、市民の関心が高く、「コウノトリ市民科学」などで確認記録が公表されているところから、これらの情報を活用することで調査の代替とします。		当初の目標種ではないが、事業の達成に象徴的な種のため追加

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(2) モニタリング項目 維持管理活動に関する調査

- 2020年から2022年に実施したモニタリングの他に、維持管理に関わる調査のうち、必要な項目については、イベントなどを活用し、調査を継続します。

区分	調査対象	R5年度以降の方針	R5以降のモニタリング項目	備考
維持管理活動に関する調査	ハンノキ林	今後も再生を進めることから、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
	サクラソウ移植地	今後も維持管理を進めることから、調査を継続する。調査は、協議会やイベント等により市民等により調査を実施することを検討する。	■	
	外来植物	外来植物の維持管理は今後も実施することから調査を継続する。調査は目標種となる植物の調査とあわせて実施する。 また、維持管理活動の際にあわせて調査を実施する。	● ■	
	外来魚類	魚類の調査に併せて把握する。	● ■	環境DNAなど簡便な手法で把握することを検討する。なお、外来魚の管理は漁協の協力が必要である。
	外来哺乳類 (アライグマ)	外来哺乳類については、市民等により調査を実施することを検討する。	■	
	チガヤ、オギ	チガヤの移植、オギ群落の保全を行ったことから、その効果の検証のために調査を実施する。維持管理活動の際にあわせて調査を実施する。	■	

○：河川水辺の国勢調査として実施、●：事務局が実施、■：協議会や外部協力者・市民による調査

1. 2023年度以降のモニタリングについて

(3) モニタリング頻度 全体計画

- 2023年度以降のモニタリングの頻度を以下のように設定しました。
- 5カ年程度モニタリングを継続のち、調査結果について検証を行い、モニタリング計画について見直しを行います。

区分	調査項目	調査主体	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
地区全体の調査	植生図	(国土交通省)										
	植物	(国土交通省)	河川水辺の国勢調査として実施									
	鳥類	(国土交通省)										
	両生類・爬虫類・哺乳類	(国土交通省)										
	陸上昆虫類等	(国土交通省)										
	魚類	事務局、市民等	河川水辺の国勢調査にあわせて5年に1度として実施									
	底生動物	事務局、市民等										
	UAV撮影	事務局	当面、毎年									
	定点写真撮影	事務局	当面、毎年									
事業実施計画調査	定点写真撮影	事務局	当面、毎年									
	植物	事務局、市民等	当面、毎年									
	昆虫類	市民等	イベントにあわせて実施									
	甲殻類・貝類	事務局、市民等	2年に一度程度									
	両生類	市民等	2年に一度程度									
	鳥類	市民等	2年に一度程度									
維持管理活動に関	ハンノキ林	市民等	イベントにあわせて実施									
	外来植物	事務局、市民等	当面、毎年									
	外来魚類	事務局、市民等	5年に一度									
	外来哺乳類	市民等	イベントにあわせて実施									
	チガヤ、オギ	市民等	イベントにあわせて実施									

モニタリング検証

モニタリングの継続、見直し

1 . 2023年度以降のモニタリングについて

(3) モニタリング頻度 地区全体の調査

- 地区全体の調査のうち生物に係る調査は、河川水辺の国勢調査で把握します。魚類と底生動物は河川水辺の国勢調査では把握できないため、調査手法を検討しますが、調査は河川水辺の国勢調査にあわせて5年に一度の頻度で実施します。
- UAV撮影と定点写真撮影については、当面、毎年実施します。

区分	モニタリング項目	調査方針	調査頻度	備考
地区全体の調査	植生図	河川水辺の国勢調査で把握	河川水辺の国勢調査にあわせて5年に一度	
	植物		河川水辺の国勢調査にあわせて10年に一度	
	鳥類			
	両生類・爬虫類・哺乳類			
	陸上昆虫類等			
	魚類	事務局、協議会や外部協力者・市民で実施	河川水辺の国勢調査にあわせて5年に一度	調査の具体化を検討
	底生動物			
	UAV撮影	事務局で実施	毎年	調査終了のタイミングを検討
	定点写真撮影	事務局で実施	毎年	

1 . 2023年度以降のモニタリングについて

(3) モニタリング頻度 整備地の調査

- 事業実施計画調査のうち、定点写真撮影については、当面、毎年実施します。
- 植物と昆虫類は年による変動が激しいため、当面、毎年実施します。
- 甲殻類・貝類、両生類、鳥類については、比較的安定して生息していると考えられるため、2年に一度の頻度で調査を実施します。

区分	モニタリング項目	目標種	調査方針	調査頻度	備考
整備地の調査	定点写真撮影	-	事務局で実施	毎年	
	植物	イチョウウキゴケ、タコノアシ、ナガボノワレモコウ、ノウルシ、ヒシ、ホザキノフサモ、エキサイゼリ、サクラソウ、ミゾコウジュ、フジバカマ、ミクリ	事務局、協議会や外部協力者・市民で実施	当面毎年	
	昆虫類	ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、エサキアメンボ、ハネナシアメンボ、ミドリシジミ、オナガミズアオ	協議会や外部協力者・市民による調査	当面毎年	調査の具体化を検討
	甲殻類・貝類	ヌカエビ、ヒメモノアラガイ、ドブガイ	事務局、協議会や外部協力者・市民で実施	2年に一度	
	両生類	ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル	協議会や外部協力者・市民による調査	2年に一度	
	鳥類	ヒクイナ、ヨシゴイ、タマシギ、ツミ、サシバ、コヨシキリ、コミミズク	協議会や外部協力者・市民による調査	2年に一度	

1 . 2023年度以降のモニタリングについて

(3) モニタリング頻度 維持管理活動に関する調査

- 維持管理活動に関する調査については、2023年度以降のモニタリングの頻度を以下のように設定しました。

区分	モニタリング項目	調査方針	調査頻度	備考
維持管理に関わるの調査	ハンノキ林	協議会や外部協力者・市民による調査	イベント実施にあわせて毎年実施	
	外来植物	事務局、協議会や外部協力者・市民による調査	事務局調査は当面毎年 そのほか、イベント実施にあわせて毎年実施	
	外来魚類	協議会や外部協力者・市民による調査	魚類調査とあわせて実施	
	外来哺乳類	協議会や外部協力者・市民による調査	イベント実施にあわせて毎年実施	
	チガヤ、オギ	協議会や外部協力者・市民による調査	イベント実施にあわせて毎年実施	

2. 2023年度のモニタリング計画（案）について

- 協議会や外部協力者・市民による2023年度の調査計画を立案したため、協議をお願いします。
- 地区全体の調査のうち、魚類、底生動物調査については、過去の捕獲調査による確認種と環境DNAによる確認種の照合を行い、有効性を検討します。
- UAV撮影、定点写真撮影、植物については、これまでと同様に調査を実施します。

区分	項目	調査実施者	調査箇所	調査時期	備考
地区全体の調査	魚類	事務局、協議会 や外部協力者・ 市民	上池、中池、下池	春季、夏季	2023年度は調査は実施しない。 捕獲調査には捕獲許可が必要であり、 市民や外部協力者が実施するのは困 難である。そこで、環境DNAなど簡便な 調査で実施が可能か検討
	底生動物			春季、夏季	
	UAV撮影	事務局	自然再生地全域	春季、秋季	
	定点写真撮影	事務局	上池、中池、下池	春季、夏季、 秋季	調査地点は、維持管理作業を実施して いる箇所や外来植物など着目すべき地 点に絞り込みを行う

区分	項目	目標種	調査実施者	調査箇所	調査時期	備考
整備地の調査	定点写真撮影	-	事務局	上池、中池、下池	春季、 夏季、 秋季	調査地点は絞り 込みを行う
	植物	イチョウウキゴケ、タ コノアシ、ナガボノワ レモコウ、ノウルシ、 ヒシ、ホザキノフサモ、 エキサイゼリ、サクラ ソウ、ミゾコウジュ、フ ジバカマ、ミクリ	事務局、協 議会や外部 協力者・市 民	上池旧流路整備地、 上池旧流路保全地区、 上池モトクロス場跡地整 備地A、 上池モトクロス場跡地整 備地D、 下池整備地	早春季、 春季、 夏季、 秋季	外来植物を含む

2. 2023年度のモニタリング計画（案）について

- ミドリシジミのようにイベント実績がある調査項目は、引き続きイベントで調査を行い、モニタリングとして有効かを検証します。
- その他の昆虫類については、2023年度は調査は実施ませんが、調査協力が得られそうな団体に、調査協力が可能かなど、実現に向けた具体的な検討を行います。
- 甲殻類・貝類については、2023年度は調査は実施ませんが、簡易的な調査の有効性について、環境DNAの分析能から検証を行います。

区分	項目	目標種	調査実施者	調査箇所	調査時期	備考
整備地の調査	昆虫類	ミドリシジミ、オナガミズアオ	協議会や外部協力者・市民	下池ハンノキ育成試験地、下池ハンノキ移植地	春季	イベント実施で把握できるか試行
		ネアカヨシヤンマ、オオキトンボ、クマコオロギ、ハネナシアメンボ、エサキアメンボ	協議会や外部協力者・市民	上池旧流路整備地、上池旧流路保全地区、上池モトクロス場跡地整備地A、上池モトクロス場跡地整備地D、下池整備地	春季、夏季、秋季	2023年度は調査は実施しない。協議会メンバー指導のもと、チームアライグマなど外部の協力者に調査が可能か打診
	甲殻類・貝類	ヌカエビ、ヒメモノアラガイ、ドブガイ	事務局、協議会や外部協力者・市民	上池、中池、下池	春季、夏季	2023年度は調査は実施しない。簡易的に調査が実施可能か検証

2 . 2 0 2 3 年度のモニタリング計画（案）について

- 両生類については、2023年度は調査は実施しませんが、調査協力が得られそうな団体に、調査協力が可能かなど、実現に向けた具体的な検討を行います。
- 鳥類については、2023年度は調査は実施しませんが、調査協力が得られそうな団体に、調査協力が可能かなど、実現に向けた具体的な検討を行います。

区分	項目	目標種	調査実施者	調査箇所	調査時期	備考
整備地の調査	両生類	ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル	協議会や外部協力者・市民	上池、中池、下池	春季	2023年度は調査は実施しない。協議会メンバー指導のもと、チームアライグマなど外部の協力者に調査が可能か打診
	鳥類	ヒクイナ、ヨシゴイ、タマシギ、ツミ、サシバ、コヨシキリ、コミミズク	協議会や外部協力者・市民	上池旧流路整備地、上池旧流路保全地区、上池モトクロス場跡地整備地A、上池モトクロス場跡地整備地D、下池整備地	初夏、冬季	2023年度は調査は実施しない。協議会メンバー指導のもと、チームアライグマなど外部の協力者に調査が可能か打診

２．２０２３年度のモニタリング計画（案）について

- ハンノキ林やサクラソウ移植地、チガヤ、オギに関しては、2023年度は、調査の具体化のための検討及びイベント実施にあわせて試行を行います。
- 外来魚については、魚類調査と同様、過去の捕獲調査による確認種と環境DNAによる確認種の照合を行い、有効性を検討します。
- 外来植物については、事務局で実施する調査はこれまでと同様に調査を実施します。また、外来植物に関するイベント実施時には、維持管理効果の検証が可能な調査を試行します。

区分	項目	調査実施者	調査箇所	調査時期	備考
維持管理に関わる調査	ハンノキ林	協議会や外部協力者・市民	下池整備地	イベント実施時	イベント実施で把握できるか試行
	サクラソウ移植地	協議会や外部協力者・市民	中池移植地	イベント実施時	イベント実施で把握できるか試行
	外来魚	事務局、協議会や外部協力者・市民	上池、中池、下池	春季、夏季	捕獲調査には捕獲許可が必要であり、市民や外部協力者が実施するのは困難である。そこで、環境DNAなど簡便な調査で実施が可能か検討
	外来植物	事務局、協議会や外部協力者・市民	上池旧流路整備地、 上池旧流路保全地区、 上池モトクロス場跡地整備地A、 上池モトクロス場跡地整備地D、 下池整備地	早春季、 春季、 夏季、 秋季	
	チガヤ、オギ	協議会や外部協力者・市民	中池保全地	イベント実施時	イベント実施で把握できるか試行

3 . 2 0 2 3 年度以降のモニタリングにおける課題について

(1) 人材確保・資金

- 自主的に調査もしくは、市民等への調査の指導を行う協議会メンバーが必要です。
- 調査実施方針が具体化したら外部指導の委託費や分析費を既存の助成制度で捻出できるか検討します。

(2) 調査の標準化

- 一定程度のデータが得られるように調査マニュアルを整備する必要があります。
- ・市民モニタリングのマニュアル事例：モニタリング1000調査マニュアル(環境省)

調査結果のとりまとめ

- 調査結果をとりまとめる担い手が必要になります。→ 当面、事務局が実施
- ・WEB-GISで成果をとりまとめ、いつでもどこでも関係者が調査データを確認できるシステムづくりが考えられます
- ・単なる位置情報だけでなく、検索できるシステムの構築(事例：「自然環境調査Web-GIS」(環境省生物多様性センター))も必要に応じて検討します。
- ・既存のシステムの活用(「いきものコレクションアプリ バイオーム」)も検討します。
- 調査結果を、協議会や調査に協力いただいた方と共有できる仕組みづくりが必要です。
- 調査結果報告用の統一フォーマットの作成(事例：バードリサーチによる参加型鳥類調査、コウノトリ市民科学)、報告しやすいようにLINE等SNSを利用(事例：淡路島におけるシロチドリの保護活動)の検討も必要です。

参考1. 市民モニタリングマニュアル事例

モニタリング1000調査マニュアル（環境省） （<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>）

環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業



モニタリングサイト1000 里地 調査マニュアル

植物相

ver. 3.1 (2015. Feb.)

植物相

鳥類

水環境

中・大型哺乳類

カヤネズミ

カエル類

チョウ類

ホタル類

植生図

環境省 自然環境局

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

日本自然保護協会
The Nature Conservation Society of Japan

モニタリングサイト1000里地調査 調査マニュアル 植物相 (Ver. 3.1)

植物相調査

目的	この調査ではその地域に生育する植物相（植物種のリスト（＝フロラ））を長期的にモニタリングし、それを通じて地域の生態系の特徴を把握するとともに、開発や管理放棄による環境の変化や外来種の侵入の程度などを把握することを目的とします。
時期	毎月1回 積雪やその他の理由で調査地への立ち入りが困難な場合は、調査を実施しない月を設定してください。冬期にしか記録されない植物がほとんどない場合についても、冬期の調査を行わずに構いません。
調査方法の概要	調査ルート上で確認された植物の種名と有性繁殖器官（つぼみ・花・実・胞子）を記録します。記録の対象となる植物は、草本植物（種子植物とシダ植物）全てです。 ※同定の困難なグループ（シダ植物、イネ科、カヤツリグサ科など）は、アドバースを得られる専門家がいない場合には調査対象から除外しても構いません。 ※植栽されていることが明らかな園芸品種、野菜などは記録しません。 ※木本種は、花や実の確認が困難なため基本的には調査対象から除外しますが、興味があれば含めても構いません。
必要な道具	☐ 調査記録用紙（PDF形式の記録用紙をプリントしてお使いください） ☐ 白地図（1/25,000～1/5,000程度の縮尺。5ページに見本があります） ☐ 植物図鑑 ☐ ビニール袋（未同定標本の一時保存用） ☐ 画板 ☐ カメラ（未同定種の撮影用） ☐ 筆記用具 ☐ 双眼鏡（必要であれば）
提出物	初年度のみ（変更が生じた場合には再度提出） ☐ 調査ルートと各区分の境界を書き込んだ地図（5ページ参照。できればJPG形式などの電子データとして提出） 毎年半期ごと（8月末、翌年1月末） ☐ 調査結果を入力した電子データ（9ページ参照。各月のフロラデータ・区間環境データ） ※NACS-Jから配布する「結果入力用フォーム（Excel形式）」を使用 ※電子データでの提出が不可能な場合は、区間環境記録用紙（5ページ）と毎月の調査記録用紙（7ページ）のコピーを代わりに提出。 提出方法 連絡担当者が他の調査項目の結果提出と一緒に、 8月末に前期分（1月～7月分） 翌年1月末に後期分（8月～12月分） を提出してください。

2

NACS-J
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

モニタリングサイト1000里地調査 調査マニュアル 植物相 (Ver. 3.1)

モニタリングサイト1000里地 植物相調査 調査記録用紙（フロラ） ver. 3

サイト番号: S001 サイト名: 〇〇の里山

調査者名: 〇〇山太郎、小川花子

調査日時: 2014年 6月 25日 (10:00～12:30) 天候: 晴

1 調査対象とした種別: ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

備考: 区画Bで田舎の草刈りや草刈り機で刈り取った草

区画Cで崖縁のための整備工事

2 区間名: ① 区間の有無 ② 区間の有無 ③ 区間の有無 ④ 区間の有無 ⑤ 区間の有無 ⑥ 区間の有無

A コハナバタ? ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

B キジメシロシ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

C アサギハコ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

D コモチマンネンソウ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

E ヨモギ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

F オオバコ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

G ニオイタマシ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

H センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

I ハルジオン ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

J ヒメジョオン ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

K フライバ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

L センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

M センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

N センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

O センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

P センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

Q センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

R センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

S センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

T センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

U センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

V センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

W センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

X センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

Y センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

Z センブリ ① 花・実・葉・果・種子 ② 葉・果・種子 ③ 葉・果・種子 ④ 葉・果・種子 ⑤ 葉・果・種子 ⑥ 葉・果・種子

調査記録用紙への記入例

記録時の注意

① どのような種群を調査対象外としたかを忘れず記録する。

② 区間名: 区間を分けて調査ルート全体で種名を記録する場合には、区間名に「ルート全体」と記入する。

③ 種名: 同定に自信が無い種は種名の横に「？」を記入。同定不可能な種は「イネ科 sp.」「スズメ sp.」など、科名や属名と sp.（未同定種の意味）を組み合わせて記入し、写真や標本を元に後日同定する。

④ 花・実の有無: 主に同定精度の確認と、種ごとのおよその季節性を把握するための記録なので、花と実の両方が見られた場合には、よく目についた方だけの記録でも構いません。

⑤ 未調査: 調査ルートに行きつけない（崖崩れや積雪、無出没等）場合、該当する区間で調査が実施できなかったときに「未調査」と記録する。

⑥ 記録無し: 調査区間を調査したものの、記録すべき種がなかった場合に「記録無し」と記録する。

7

NACS-J
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

出典: モニタリングサイト1000HP (<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>)

参考1．市民モニタリングマニュアル事例

モニタリング1000調査マニュアル（環境省） （ <https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html> ）

環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業



モニタリングサイト1000 里地 調査マニュアル

鳥 類

ver. 3.1 (2015. Feb.)

植物相
鳥類
水環境
中・大型哺乳類
カヤネズミ
カエル類
チョウ類
ホタル類
植物図

環境省 自然環境局
生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

日本自然保護協会
The Nature Conservation Society of Japan

モニタリングサイト1000里地調査 調査マニュアル 鳥類 (Ver. 3.1)

鳥類調査

目 的	時 期	調査方法の概要	必要な道具	提出物
生態系で多様な役割を担う鳥類を把握するとともに、それを通じて異なる景観スケール（全国・地方・サイト内）での環境変化を把握します。	繁殖期、越冬期それぞれで6回の調査を実施します。 繁殖期（6回） 沖縄では4～5月 本州・四国・九州では5月中旬～6月下旬 北海道では6月上旬～7月上旬 いずれも日の出頃～午前8時頃までに実施 越冬期（6回） 12月中旬～2月中旬の午前中に実施（全国共通） ※積雪等で立ち入りが困難な場合には調査を実施しません。 6回の調査の実施方法（以下の2つから選択） ・1日に3回（一往復）の調査を実施し、2週間ほどあけて再び1日（3回）実施する。 ・1日に2回（一往復）の調査を、10日～2週間ほどの間隔をあけて計3日実施する。	繁殖期と越冬期に調査ルートを一定の速度で歩いて、半径50m以内で確認された鳥類の種名・個体数を記録する。 雨天や風の強い日は鳥の鳴き声が聞きにくいので、できるだけ風のおだやかな晴れや曇りの日に調査を実施しましょう。	☐ 調査記録用紙（PDF形式の記録用紙をプリントしてお使いください） ☐ 白地図（1/25,000～1/5,000程度の縮尺。5ページに見本があります） ☐ 双眼鏡 ☐ 筆記用具 ☐ 時計 ☐ 画板	初年度のみ（変更が生じた場合には再度提出） ☐ 調査ルートと各区間の境界を書き込んだ地図（5ページ参照。できればJPG形式などの電子データとして提出） 毎年1回（8月末） ☐ 調査結果を入力した電子データ（9ページ参照） ※MCS-Jから配布する「結果入力用フォーム」（Excel形式）を使用 ※電子データでの提出が不可能な場合は、代わりに毎回の調査記録用紙（7ページ）のコピーを提出してください。 ☐ （任意で提出）調査記録用紙をスキャンした電子データ（JPGやPDF形式で） 提出方法 連絡担当が他の調査項目の結果提出と一緒にを行い、 前年の越冬期分と今年の繁殖期分の2ファイルを含めて 8月末までに提出してください。

モニタリングサイト1000里地調査 調査マニュアル 鳥類 (Ver. 3.1)

モニタリングサイト1000里地 鳥類調査 調査記録用紙 ver.3.0

サイト番号: S001 記録用紙 1 枚目/計 3 枚
サイト名: 〇〇の里山 調査実施場所: 〇〇の里山
その他参加者: 〇〇〇 記録: 〇〇〇
調査日時: 2014年 5月 16日 5:50～6:24 繁殖期・越冬期 4 回目の調査
全体の備考: コース外はオオカミを撮影し、サビツウモリを撮影した。
区間の備考: C: 鳥の鳴き声と地面の色と空の下の雲の下の雲が綺麗だった。
D: 繁殖期の鳥の鳴き声が多かった。

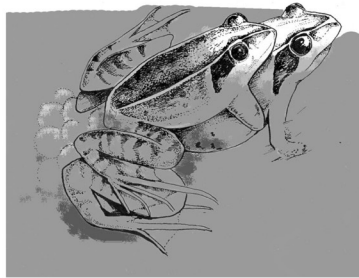
区間名 (例)	種名	数	観察事項 (注記するものだけ記入)	備考
例A	アキハ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	カワヒ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	ホオジロ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	ウグイス	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	キジビ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	小鳥を運んでいた。
例C	シジュウカラ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	シジュウカラ	3	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	セキレイ	5	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
例D	シジュウカラ	2	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	繁殖期に記録した鳥の鳴き声。
	シジュウカラ	10+	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	繁殖期、10～15羽の鳴き声。
	トビ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	カビツウ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	サイト外で撮影した。
例E	カラス	2	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	上空を通過。
	カラス	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	繁殖期のための調査で来た。
	一羽一羽	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	
	エナ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	休憩中に目撃。
	オナ	1	① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌	カラスは1羽もいなかった。

※ 表中の観察の記録は以下の通りです
① 繁殖 ② 雄 ③ 雌 ④ 幼鳥 ⑤ 雄 ⑥ 雌 ⑦ 雄 ⑧ 雌 ⑨ 雄 ⑩ 雌
⑪ 繁殖 ⑫ 雄 ⑬ 雌 ⑭ 幼鳥 ⑮ 雄 ⑯ 雌 ⑰ 雄 ⑱ 雌 ⑲ 雄 ⑳ 雌
㉑ 繁殖 ㉒ 雄 ㉓ 雌 ㉔ 幼鳥 ㉕ 雄 ㉖ 雌 ㉗ 雄 ㉘ 雌 ㉙ 雄 ㉚ 雌
㉛ 繁殖 ㉜ 雄 ㉝ 雌 ㉞ 幼鳥 ㉟ 雄 ㊱ 雌 ㊲ 雄 ㊳ 雌 ㊴ 雄 ㊵ 雌
㊶ 繁殖 ㊷ 雄 ㊸ 雌 ㊹ 幼鳥 ㊺ 雄 ㊻ 雌 ㊼ 雄 ㊽ 雌 ㊾ 雄 ㊿ 雌

参考1．市民モニタリングマニュアル事例

モニタリング1000調査マニュアル（環境省） （ <https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html> ）

環境省重要生態系監視地域モニタリング推進事業



モニタリングサイト1000 里地 調査マニュアル

カエル類

ver.3.1 (2015. Feb.)

植物相
鳥類
水環境
中・大型哺乳類
カヤネズミ
カエル類
チョウ類
ホタル類
植生図

環境省 自然環境局
生物多様性センター 日本自然保護協会
Biodiversity Center of Japan The Nature Conservation Society of Japan

モニタリングサイト1000 里地 調査マニュアル カエル類 (ver.3.1)

カエル類調査

目的	アカガエル類の卵塊数を長期的にモニタリングすることで、それを通じて水辺と森林の連通性を評価します。
時期	アカガエル類の産卵期間におよそ2週間に1度の頻度で実施 ※ 産卵季節は地域によって大きく異なり、本州平野部では1～4月、全国的には11～翌年5月。
調査方法の概要	アカガエル類（主にニホンアカガエル・ヤマアカガエル・エゾアカガエル）を調査対象種として、それぞれの調査地区で確認される新しい卵塊の数をすべてカウントする。
必要な道具	☐ 白地図（1/5,000～10,000程度の縮尺を推奨。5ページに見本があります） ☐ 画板 ☐ 筆記用具 ☐ 双眼鏡 調査記録用紙 （PDF形式の記録用紙をプリントしてお使いください。または、各自で白地図に直接書き込むなど使いやすいものをご用意いただいても構いません。）
提出物	初年度のみ（変更が生じた場合には再度提出） ☐ 調査地区の位置と境界を書き込んだ地図 （5ページ参照。できればJPG形式などの電子データとして提出） 毎年1回（8月末） ☐ 調査結果を入力した電子データ（9ページ参照） ※ NACS-Jから配布する「結果入力用フォーム」（Excel形式）を使用 ※ 電子データでの提出が不可能な場合は、入力用フォームを印刷したものをお配りしますので、結果を書き込んでコピーを提出してください。
提出方法	連絡担当者が他の調査項目の結果提出と一緒に、8月末までに提出してください。

2

NACS-J
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

モニタリングサイト1000 里地 調査マニュアル カエル類 (ver.3.1)

モニタリングサイト1000 里地 カエル類調査 調査記録用紙 ver.3

サイト番号: 001 サイト名: ○○の里地

調査者名: ○○の里地 調査員: 〇〇の里地

調査日時: 2009年1月28日(9:30～14:00) 記録用紙(/ 地区別(/ 5 地区)

地区名: A 地区内に含まれる水辺タイプ(複数可): (水辺) 林縁(水田・水路・池沼) 水辺環境の状況 (水田・池沼・水路・池沼) 水田環境の状況 (水田・池沼・水路・池沼) 水田環境の状況 (水田・池沼・水路・池沼)

前年度までの累積数: 28 今年度の新増減の合計数: 256 調査方法: 調査・サンプリング法 備考: 調査員: 〇〇の里地

地区内の位置地図: 〇〇の里地の位置地図

図：現地での調査記録用紙と、卵塊数の記録例

- ※ 3：蛇や土水路などを避けるように最大限注意してください。遠いところは双眼鏡で卵塊のおよその最低数を記録してください。地権者から立ち入り許可が得られない場合はモニタリングの対象範囲から除外し、地図にその範囲を明記してください。
- ※ 4：卵は1週間から3週間程度で孵化するため、前期の調査でカウントした卵塊が孵化していることが多いです。
- ※ 5：地権者の了承が得られる場合は、カウントした卵塊の側に枯れたヨシの茎などを差しておくといでしょう。卵塊の重複カウントを防ぎます。

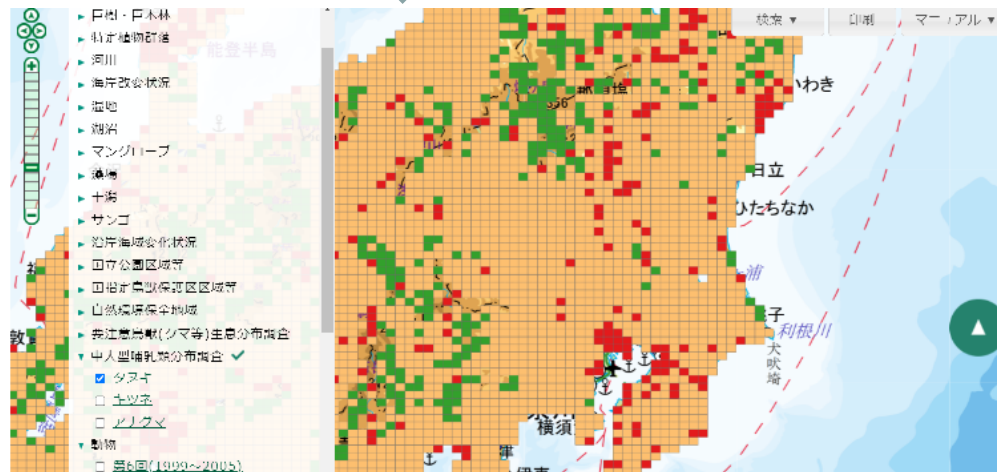
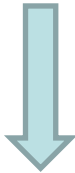
7

NACS-J
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

出典：モニタリングサイト1000HP (<https://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>)

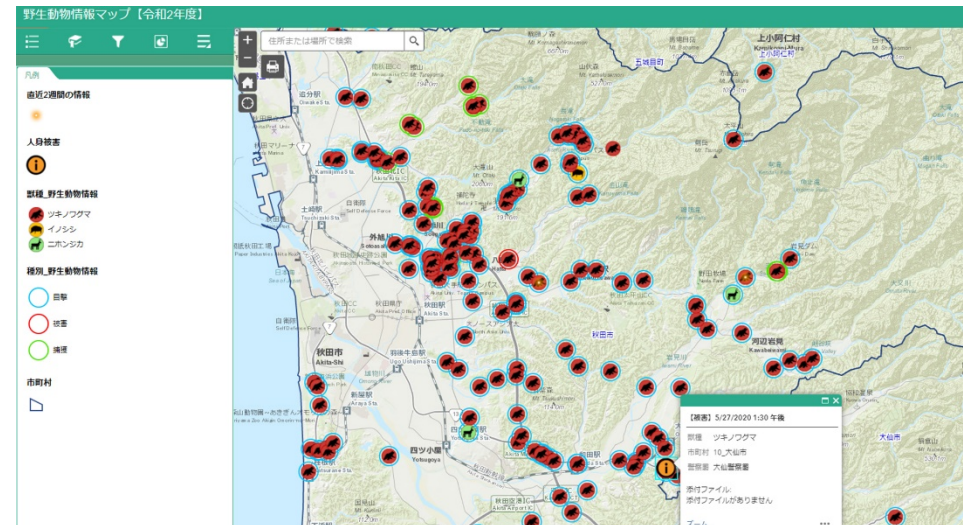
参考2 . Web-GIS事例

「自然環境調査Web-GIS」
(<https://www.biodic.go.jp/>)



出典: 生物多様性センターHP (<https://www.biodic.go.jp/>)

「ツキノワグマの目撃情報と投稿アプリ」
(<https://www.esrij.com/industries/case-studies/135470/>)



出典: esriジャパンHP
(<https://www.esrij.com/industries/case-studies/135470/>)

参考3．既存システムの活用（1/2）

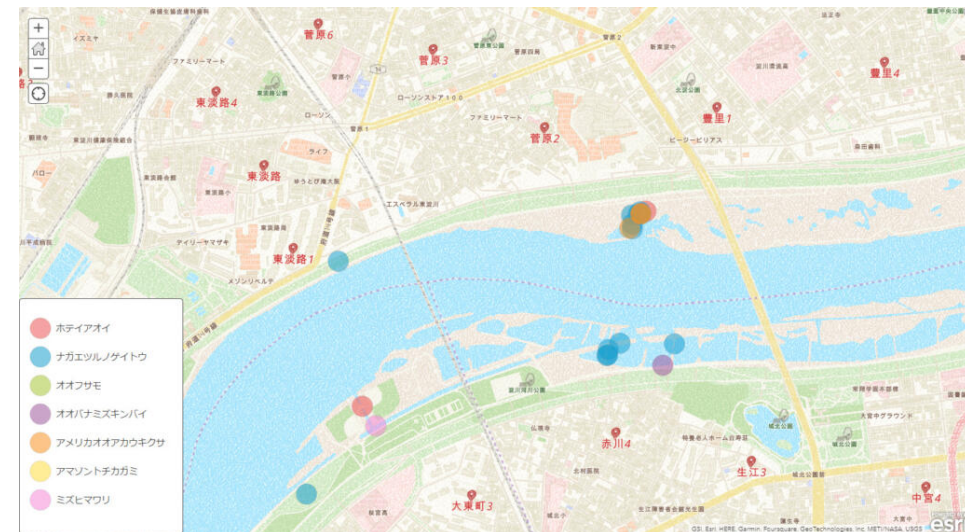
「いきものコレクションアプリ バイオーム」(<https://biome.co.jp/>)



バイオームのク
エスト機能を用い
て淀川における
外来水草の分布
を把握



大問題 3 種！注目種 5 種！ガイドをチェック！



参考3 . 既存システムの活用 (2 / 2)

「いきものログ」 (<https://ikilog.biodic.go.jp/>)



環境省
Ministry of the Environment



いきものログで未来へつなぐ
ワクワクの生きものワールド!

いきもの探検隊

隊員募集中

「いきものログ」には、日本中のみなさんから報告された、いつ、どこで、どんな生きものを見つけたかという、生きものの情報がいっぱい。

あなたもいきもの探検隊の隊員(いきログユーザ)になって、一緒に身近にあるワクワクの生きものワールドを探検してみませんか?

「いきものログ」であなたの発見を日本中の人とシェアして、未来につないでいきましょう!

パソコン・スマホで検索!
いきものログ 検索 <https://ikilog.biodic.go.jp/>



いきものログ

いきものログ運営事務局 TEL: 0555-72-8018
平日 10:00 ~ 17:00 (土日、祝日、年末年始の12/29 ~ 1/3を除く)
E-mail: ikilog_info@env.go.jp



生きもの情報をたくさん報告して
生きものの未来を守ろう!

ワクワク生きものワールドをのぞいてみよう!!

いきもの探検隊



近年、日本の自然を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、身近にいる生きものたちが人知れず数を減らしています。

そんな生きものたちを守るために環境省が行っている取り組みのひとつが、インターネットを通じて生きものの情報を集める「いきものログ」。生きものの情報を誰でも報告でき、日本中のみなさんと情報をシェアすることができます。ぜひ、あなたも「いきものログ」のいきもの探検隊員(いきログユーザ)になって、身近にいる生きものの情報を「いきものログ」に報告してみませんか?

あなたの発見が日本中にシェアされ、日本の生きものの未来につながっていきます。今も未来もワクワク・ドキドキの生きものの世界が身近にあり続けるために、みなさんのご参加をお待ちしています!

登録!
しよう!

パソコンやスマートフォンから誰でも(15歳以下の方は保護者の同意が必要)ユーザ登録することができます。

住所や氏名等の情報登録は一切不要です。生きもの情報報告・閲覧・調査への参加など、さまざまな機能を無料で利用することができます。

アプリで簡単登録

- スマートフォンから野外でも報告できる
- GPS機能で写真撮影位置を自動で記録できる
- 電波がない場所でも地図を見ることができる

アプリは、Google Play または App Store より無料でダウンロードできます。
使い方は、ホームページをご覧ください。 <https://ikilog.biodic.go.jp/apphowto/>

報告!
しよう!

生きものを見つけたら(場所、日付、写真など)ウェブサイトから報告できます。

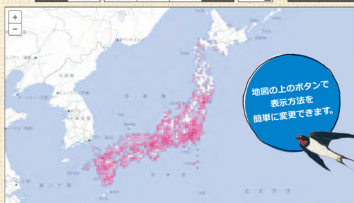
毎日の小さな発見から本気の生物調査まで、たくさんの生きものの情報を共有することができます。また、よく見られる生きものや報告件数の多いユーザのランキングがウェブサイトに掲載されます。

検索!
しよう!

生きもの名前や場所を入力すると、自分や他のユーザの報告のなから、いつ、どこで、どんな生きものが観察されたのかを調べることができます。

検索結果は地図で見たり、データをダウンロードすることもできます。

例えば **ツバメ** を分布図で表示してみよう!



検索結果地図 全17419件

地図の上のボタンで
表示方法を
簡単に変更できます。

※ポイント表示は外来種のみに対応しています。

リサイクル適性
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

ランキング

注目の生きもの
カワセミ

2021年08月
〇〇さん

最新の報告 (写真付き)

5,147,991件 (2021年08月26日現在)

2021年08月
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

ニホンリス

2021年08月
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

ノゾサビ

2021年08月
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

エゾカラナナシ

2021年08月
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

ナオカマド

種名調べ支援依頼

名前がわからない生きものを報告したい場合のサポート機能です。見つけた場所や写真、大きさ、見つけた場所の環境などを投稿して、質問してください。生物名(種名)を調べるヒントやアドバイスをもらうことができます。

※依頼される生きものによっては、回答までに時間がかかる場合があります。生物名(種名)の候補を特定することができない場合もありますのでご了承ください。

※本機能はあくまで生きもの(種名)を調べるヒントやアドバイスを回答するものであり、依頼内容から完全な回答を行うものではありません。

パソコン・スマホで検索!
いきものログ 検索 <https://ikilog.biodic.go.jp/>